

# 地上デジタル放送について

☆地上デジタル放送視聴のための低所得世帯への支援について

## 1. 対象となる世帯

(1) NHK放送受信料が全額免除となっている世帯への支援

**[支援の対象]** まだ地上デジタル放送に対応できず、①生活保護などの公的扶助を受けている世帯、②障がい者がいる世帯で、世帯全員が市町村民税非課税の世帯、③社会福祉施設に入所している世帯のいずれかに該当し、NHK放送受信料が「全額免除」の世帯が対象です。

**[支援の内容]** 地上デジタル放送対応の簡易なチューナー（1台）を無償給付し、対象世帯を訪問してチューナーの設置を行ないます。アンテナ改修等が必要な場合は無償で工事を行ないます。

**[申請書類設置窓口]**

- ・福祉総務課（別館1階 3番窓口）
- ・福祉支援課 制度推進支援担当（別館1階 6番窓口）

(2) 平成22年度市町村民税非課税世帯への支援

**[支援の対象]** まだ地上デジタル放送に対応できず、「世帯全員が市町村民税非課税の措置を受けている世帯」が対象です。（※申し込みにあたっては、「世帯全員が記載された住民票の写し」と「世帯全員の市町村民税非課税証明書」、およびNHKとの放送受信契約が必要です。）

**[支援の内容]** 地上デジタル放送対応の簡易なチューナー（1台）を無償給付します。また、チューナーの設置方法や操作方法を電話で

サポートします。（チューナーの訪問設置、アンテナ改修などは行ないません。）また、(1)と(2)を重複して申し込むことはできません。

**[申請書類設置窓口]**

- ・総合案内（本庁1階）
- ・税務課（本庁1階 10番窓口）
- ・建築住宅課（本庁2階）
- ・政策推進課（本庁4階）
- ・支所・人権文化センター

## 2. 申込方法などについて

申込書に必要事項を記入し、必要書類を添付して総務省地デジチューナー支援実施センターへ送付してください（申込締切日：平成23年7月24日）。申込書は、インターネット・電話等で総務省地デジチューナー支援実施センターからお取り寄せいただくこともできます。

### ★支援制度について

総務省 地デジチューナー支援実施センター

①NHK放送受信料全額免除世帯への支援：0570-033840

②市町村民税非課税世帯への支援：0570-023724

### ★NHKの放送受信契約、放送受信料免除について

NHK ふれあいセンター

①NHK放送受信料全額免除について：0570-000588

②NHKの放送受信契約について：0570-077077

## 第14回 畑田塾のお知らせ

日程：5月15日（日）

時間：10:30～16:00

場所：国の登録文化財 畑田家住宅

対象：小学5・6年生から中学・高校生まで（保護者の方も一緒にご参加ください。）

参加費：無料です。ただし、昼食と飲み物はお持ちください。

※ご希望の場合は、往復はがきに住所・氏名（ふりがな）・学校名・学年・年齢・電話番号・返信用宛名を書いて〒583-8585（住所記入不要）羽曳野市教育委員会 社会教育課文化財担当までお申込みください。折り返し、参加券をお送りします。申込締切は5月10日（火）（※必着）お問い合わせは☎072-762-7495（当主：畑田耕一）

主催：畑田家住宅活用保存会  
後援：羽曳野市・羽曳野市教育委員会  
協賛：大阪大学総合学術博物館

羽曳野市郡戸にある畑田家住宅は江戸時代から村の大切な役割を果たしてきました。今でも明治時代の建物の様子がよく残り、国の大切に残さなければならない建物として登録されています。この古くて広い部屋や庭を使って、勉強やスポーツ・芸術などいろいろな先生による実験や実技を見ながらその楽しさを紹介する塾を開きます。先生方といろいろ話し合いをしながら将来の進路を見つけるきっかけになればと思います。未来の羽曳野市をささえる、皆様の参加をお待ちしています。

### 「お能ってなあに？」

能楽師・観世流 シテ方 山本 博通 先生

皆様、能楽を知っていますか？能楽は、日本が世界に誇る伝統芸能で、今から650年前に確立されました。

現在、見る機会が少なくなっていますが、一度能楽をみていただければ、何かを感じて頂けると思います。当日は、能楽での声の出し方などをお話し、体験していただき、少しでも身近に感じて頂ければと思います。



### 「子どもの遊びを考える」

畑田家住宅活用保存会 役員など

昔、子どもは庭の片隅でお手玉や面子をしたり、自分で作った紙飛行機で競ったり、いろいろな工夫をして遊んでいました。こうした日々の遊びを通して、手先の器用さや運動神経をきたえ、考える力、想像力などを身につけていったのです。畑田塾では、生きる力を養っていくにはどうするのかを、子どもと大人が一緒になって、実際に遊びながら、考えてみたいと思います。

